

災害医療等で行われる『トリアージ』を理解する法教育の実践

—トリアージミスの責任を問えるか—

坂本 真史 (国際医療福祉大学 総合教育センター)

- 1 現在行われているトリアージに関する教育のほとんどは、トリアージ実施主体の教育・訓練に重点を置くもので災害医療従事者を対象としており、一般市民を対象としていない。
- 2 トリアージとは、災害時発生現場等において多数の傷病者が同時に発生した場合、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために傷病者の治療優先順位を決定することをいう。¹トリアージは、災害時等における医療資源の希少性という制約のもとでどのように資源配分すればよいかを考える場面（配分的正義の問題）であり、その確立した手法は『最大多数に対する最大幸福を達成せよ』という功利主義的な考え方に基づいている。また、トリアージには10～30パーセントの誤りが発生すると言われており、70パーセント以上が適切な判断であれば適切なトリアージと評価される。医療資源が制約された状況において、30秒以内でトリアージ区分の判定を行うものとされており、これらが誤りを発生させる要因と推察される。
- 3 仮にトリアージを受けた傷病者がその意義を理解していない場合には、処置や搬送の順序をめぐるトラブルや、事後的に判定の妥当性をめぐるトラブルが起こるかもしれない。このようなトリアージについての理解不足から生じるトラブルをできるだけ回避するためには、日頃から一般市民に対して、トリアージの意義に関する普及啓発に努めるほかに方法はないが、その取組みは十分ではない。
- 4 本発表では、発表者が作成した一般市民を対象とするトリアージを理解するための教材を紹介するとともに、同教材を使用した法教育の実践について報告する。

¹ 日本救急医学会による定義